

令和元年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	SSRB「ディベート」成果発表会
期 日	11月21日(木) 13:30~15:40
会 場	新潟大学教育学部附属長岡中学校
参加者	理数科2年生11人(司会1人、賛成立場5人、反対立場5人)
対 象	新潟大学教育学部附属長岡中学校 中学2、3年生
内 容	<p>附属長岡中学校 全校「いのち」という授業の一環</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校担当教諭が中学生に対してディベートについて説明する。 2. 体育館のステージ上で、本校生徒が授業で行ったディベートを披露する。 テーマ 「コンビニエンスストアの24時間営業の縮小について」 3. 中学2、3年生は全員、聴衆となり、3年生はディベート終了後、ジャッジカード(賛成:青、反対:赤)をあげる。代表生徒は、選択した理由を述べる。 4. 中学生がディベートを実践する。本校生徒は中学生に混ってジャッジに参加する。ディベート終了後、ジャッジカード(青・赤)をあげ、理由を述べる。 テーマ① 「高齢者ドライバーの免許返納について」 テーマ② 「プラスチックの利用について」
	 
感 想	<p>■中学生に対して行ったディベートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2ターンしかなく、時間も足りなかったなので、論点が絞りきれず大ざっぱな感じでジャッジされたと思う。もう1ターンあると議論が深まったと感じた。 ・ディベートは、聴衆(ジャッジする人)に対して意見を述べるものであるため、分かりやすく相手との違いを示すことが勝敗を左右することが分かった。 ・総括の時に、論点を整理して、相手の論点と自分たちの論点を比較した方がジャッジに訴えやすいと思った。 ・多くのデータを集めることが大切なのはもちろん、それを分かりやすくまとめて適切に伝えることが重要だと分かった。さらには、データの量や質より、話し方の説得力で勝負が決まってしまうこともあることが分かった。 ・緊張してうまく受け答えができなくて悔しかった。 ・マイクを使って話すことに慣れていないので、しっかり伝わっていたのか分からなかった。

■中学生が行ったディベートに参加して、またジャッジとして参加した感想

- ・中学生は立論だけであったが、その中でも相手を論破しようとしていてよかった。
- ・相手の立論に対して、まだ習っていない反駁をしている生徒がいて驚いた。出典の不明瞭や具体的な数値の欠如、調査方法の不確かさなどをきちんと指摘していた。
- ・ただ調べてきたことを読むだけでなく、相手に呼びかけるように感情を込めていた生徒もいてよかった。
- ・講評するポイントを探しながら聞くことが大変だった。
- ・課題の解決策を述べる際、その根拠をしっかりと示せるといいと思った。
- ・立論の仕方(流れや数字の使い方など)について時間をかけて学べるともつとよくなると思う。

■今年度、SSH の取組として行った「ディベート」について

○自分自身に付いたと思う力(複数選択可) アンケート回収 10

読解力(さまざまなデータや論文などの文章を読み解く)	9
情報活用能力(情報を収集, 処理, 活用する)	10
課題発見力(現状を分析し課題を発見する)	5
課題解決力(課題を適切に解決する)	5
論理的思考力(物事を論理的に考える)	7
批判的思考力(物事を多面的, 客観的に考える)	7
表現力(自分の考えを英語や日本語で的確に伝える)	7

○感想

- ・相手が言ったことに対してすぐに対抗や指摘をすることは難しかったが班で協力して意見を作り上げることや、相手に反論することは楽しかった。
- ・ディベートを通してたくさんの情報から必要な資料を取り出すことがかなり早くできるようになった。一方で、相手の意見の要点を押さえることが苦手だと自覚できた。今後、強化していきたい。
- ・ディベートは情報を収集できる機器と自分の力を使って行われる競技で、現代の学習とアウトプットに最適だと思う。今後も続くといいと思う。
- ・ディベートは何を聞かれていて、何を答えなければいけないかということを理解できていないと難しい。
- ・相手の発言を理解し、問題を見つけ、それを表現する、という一連の流れを短時間にやらなければいけないので大変だったが、今までにない経験だったので楽しかった。
- ・普段、部活動でやっていることと似たようなことをしたが、今回部員以外の人とディベートを行って多くのことに気づいた。